

2023年（令和5）年12月4日（月）  
第15回「いのちの日 いのちの時間」自死者追悼法要  
参拝者48名、有志僧侶31名により厳修いたしました

去る12月4日（月）、本年も「いのちの日 いのちの時間 -自死者追悼法要-」を厳修いたしました。

自死・自殺によって亡くなられた方を偲びつつ、すべての人びとが安穏なることを願い、真宗大谷派名古屋別院 対面所にて、自死遺族のみなさまとともに、禅宗・真言宗・浄土真宗など、さまざまな宗派の有志僧侶31名により厳修いたしました。

今年は新型コロナウイルス感染症が5類に下げられたこともあってか、昨年より多い48名の方々にお越しいただき、50名の故人さまの戒名・法名・お名前を読み上げました。

法要では始めに、ご詠歌が歌われる中、蓮の花びらを模した色紙を散らしながら僧侶が入堂し、導師が法要の願いを仏さまに奉告いたしました。その後さまざまな宗派の僧侶による読経と、故人さまのお名前が読み上げられ、最後に、仏さまになられた方へ法要の功德がたむけられるとともに、今を生きるすべての人びとの安寧が願われました。

法要後の茶話会では、法要を終えての参拝者の心境が語り合われ、日ごろ表に出す事ができない気持ちを分かちあいました。



僧侶の散華・入堂



故人さまのお名前読み上げ

茶話会の後は真言宗の僧侶により、ご遺族が書かれた亡き方へのお手紙をお焚きあげいたしました。参拝者の方々は、昇る煙を見つめ、それぞれが亡き方へ思いを馳せておられました。



お焚きあげ

自死遺族の方の中には、自責の念や、自死遺族であることに後ろめたさを抱え、そのような思いを誰にも吐き出せない方、また、前向きに生きることを強要されているように感じ、悲しむことができない方など、さまざまな思いを抱えた方がおられます。

いのちに向き合う宗教者の会は、これからもそうした方々が、少しでも日頃の思いを安心して吐露できるよう、自死者追悼法要や、分かち合いの場を、共に作り上げて参りたく存じます。遺族のみなさまや関係の方々におかれましては、引き続きお力添え賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

合掌



今年も多数のメッセージ・写経をありがとうございました。また、ご懇志を頂いた方にも厚く御礼申し上げます。寒さが本格的になってまいりました。何卒、みなさまご自愛くださるようお願いいたします。

いのちに向き合う宗教者の会 第15回法要スタッフ一同